

佛心

2016年6月
浄土真宗
トロント本願寺

ルンビニ・キャンプに行くこと

こんにちは皆さん、片岡ジョアンヌです。仏心に記事を寄稿しないかと頼まれた際、私は二つ返事で「いいですよ」「大丈夫です」と言ってしまった。何も書く内容に心当たりが無かったにも関わらずですが、ちょうどこの時期ということでルンビニ・キャンプに絡めて私とお寺の関係を書こうと思います。

ルンビニ・キャンプに参加したことは最も懐かしく良い思い出の一つです。正確にいつ頃から私と兄弟がお寺に行くようになったのかは覚えていませんが、ワサガビーチにルンビニ・キャンプとして田中夫人やお寺の少女部会のメンバーと一週間滞在した時のことははっきりと覚えています。兄弟たちは大垣夫人や少年部会のメンバーと別の週に行きました。カワグシ・グレン氏はもう少し上の世代の引率でそのグループは男子も女子も合同でした。

次に私がお寺と関わったのは、十五年の時を経て、高校卒業、結婚、一人目の子供の出産といった活動が一段落した時でした。私はレイチェル（第一子）を産む直前に母を亡くしました。それ以降、父との距離がそれまでより近くなりました。父は当時、まだお寺で活発に活動していましたので、それがきっかけで私は三歳になる娘をダルマ・スクールに連れて行くようになりました。娘はまだ三歳で幼稚園に入れるには小さすぎることは分かっていたので、田中夫人（なんと彼女は未だに子供たちのお世話をしています！）を手助けするという形で一緒に付き添っていました。田中夫人がダルマ・スクールをお辞めになられるに際し、江藤サンドラさんと私でその幼稚園を引き継ぐことになりました。ユースは高橋イレインさんが担任でした。

娘がルンビニ・キャンプに参加できる年齢になると、もちろん私はその機会に飛びつきました。当時は高橋イレインさんが取り仕切っていました。イレインさんと他のボランティアの方々のおかげでプログラムは大盛況で帰り道に子供たちは来年が待ち遠しいという感想を口々に教えてくれました。私も料理の手伝いとして滞在していたのですが、子供の付添いとしてアバゲイル（私の二番目の子）と一種にいる時だけでした。彼女がキャンプできるぐらいに大きくなると、丸々一週間の滞在もしたものです。イレインさんの後は順に吉田兄弟、マイク、そしてクリスが一年ごとに企画していきました。その後はしばらく生田グラント先生が取り仕切りました。内田クリス氏はその次で、彼も数年間担当しました。現在は三人の共同企画者、片岡レイチェル、後藤コウジ、そして田口ステファンが担当しています。彼ら彼女らは皆キャンプをすることから始め、ジュニアカウンセラー、シニアカウンセラーを経て今や運営側にいるのです。ついでに言うアバゲイルは今ではシニアカウンセラー、ヨアキン（三人目の子供）はキャンプをする側です。

キャンプ・ルンビニにいる一週間の計画はびつちりと詰まっており、キャンプする子供たちは大忙しです。朝は体操と軽く走ることから始まり、カウンセラーを中心とした朝の法話に続きます。朝食を取り、グループに分かれて分担された仕事に取り掛かります。皿洗い、キャビン周りの掃除と残った一グループは自由時間です。日程は日々変わり、ビーチに行ったり工作したり、仏教の授業があったり、ゲーム・スポーツの時間があったり。

子供たちはお寺の活動の中でこのキャンプを一番楽しみにしています。仏の教えを実生活に取り込むことを学ぶのに、このキャンプは最も楽しく良い方法だと思います。毎年テーマが変わり、それに沿って一週間の活動内容も変わります。

合掌

片岡ジョアンヌ

